

議事録

会議の名称	令和4年度第10回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和5年1月26日（木曜日）午前10時から12時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦委員、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、中嶋亮太委員（50音順） 事務局：保谷企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、鹿森企画政策課課長補佐、小倉企画政策課主査、佐藤企画政策課主任、鎌田企画政策課主事 欠席：佐々木亮翔委員、松川紀代美委員
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 (1) 基本構想について ①基本理念について 議題3 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市第3次総合計画 基本理念（案） 資料2 西東京市総合計画策定審議会会議予定（案） 資料3 西東京市第3次総合計画基本構想（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>議題1 開会</u> 会長より開会の挨拶</p> <p><u>議題2 諮問事項に対する協議検討</u> 事務局から資料1について説明</p> <p>○委員 当初、案1がスタンダードで広く好まれるので良いと思っていたが、資料1を見ると案2の「深呼吸」というキーワードに目が行き、それに付随する説明文があれば納得もできる。</p> <p>○委員 案2の「深呼吸」というフレーズは注目を集められるが、急に出てきたようにも感じら</p>	

れる。理念は、わかりやすく簡単で、市民が一度聞くと覚えられるものが良い。単語の意味が重複せず、長すぎないものが良い。

○委員

案1は、わかりやすく良いが、「いこいの森」という名称については、いこいの森公園の名称を決める際にも議論を重ね決定した経緯がある。そのため、市民が「いこい」という言葉を大切にしてきたことが伝わる説明文を入れてほしい。また、「バトンを渡していく」とあるが、何を渡すかが伝わりにくいので「まちづくりのバトンを渡していく」としてはどうか。「やさしさ」と「いこい」を大切にしていきたいという姿勢を全面に出したい。

○委員

基本理念は市民にとってわかりやすく伝わるものが望ましい。案1の「やさしさ」と「いこい」は、計画策定において重視する6つの視点の「たから」や「らしさ」につながり、第1次、第2次総合計画の理念を継承していることが感じられる。

○委員

案1の「いこい」は市民が大切にしてきたものであり、6つの視点にも沿っていると思う。また、まちで暮らす際には「安心」が一番大切であると考えているため、案2の説明文の「仕事から帰って来た時にほっとするまち」が良いフレーズであると感じた。

○委員

基本理念は、子どもにとってもわかりやすいものが望ましいため、案1が良いと感じた。案2の「深呼吸」はいろいろとイメージできるという良さはあるが、わかりやすさという観点から案1が良いと思う。やさしさを感じられていない人にも目を向けた計画づくりが大切であると考えており、他者とつながれていない人がまだまだいるという視点を大切にしたい。

○委員

案2の「深呼吸」には心惹かれるが、母国語が日本語ではない人や子どもにもわかりやすいものが良いため、案1が良いと考える。案1の「やさしさ」についての説明文に「多様性を受け入れる寛容さや思いやり」とあるが、マジョリティがマイノリティを受け入れてあげるという意味にも受け取れ、この表現では平等性を感じられない。

○会長

「やさしさ」とは、多様性を受け入れる寛容性のことではなく、やさしさ自体にも多様

性があるということではないかと理解する。「やさしさ」とは人に対するもの以外にも、環境に対するものや様々な社会課題に対するものなどがある。多様性とやさしさをすぐにつなげず、いったん区切るとイメージが変わるのではないか。

○委員

第1次・第2次総合計画の計画期間が20年経過し、第三次総合計画で次の10年を考えることには大きな意味がある。基本理念とは、この20年で何が達成できて次の10年はどうなるのか、という視点に対する姿勢を示すものと考え。より重大で複雑な問題が起こった時にいかに対応するか、という変化を促す計画であることが大切である。

案2の説明文では、目を背けてはいけない重要な課題が挙げられているため、「深呼吸」という言葉は人々に投げかけるメッセージとして有効であると考え。一方で、案1、案3の「やさしさ」を繰り返し主張し続けながらも、変化に対応することも大切である。市民が大切にしてきた言葉の価値は重要であり、変化に対応するために全く別の言葉にしていいのかという懸念もある。

○委員

案2は、まちのブランディングとして良いと感じるが、「深呼吸」の捉え方は人によって異なるため、西東京市としての「深呼吸」の意味を、西東京市の多くの人に正確に理解してもらうのは大変なのではないか。案1と案3は「いこい」が共通しており、「やさしさ」と「つながり」の二者択一になっているように感じる。「はぐくむ」という言葉が案2に使用されているが、案1と案3には使用できない理由があるのか。

○事務局

案1と案3は、フレーズのバリエーションを増やすために、あえて別の言葉を使用している。言葉の組み合わせを変えて案1～3から新しい案を提案いただくことも可能である。

○委員

前回「はぐくむ」という言葉が良いと発言したが、この言葉はまだできあがっていないものを大きくしていくというイメージがあるため、20年経ってもまだできあがっていないのかという印象を受けてしまうようにも感じる。案1の「つなぐ」という言葉に、積み重ねまで想像させるのは難しいのではないか。「つなぐ」には、今後の予測不可能な社会変化の中でも、やさしさといこいを守っていきたいという意味が込められていると理解すると説得力がある。「市民」と「まち」と「しくみ」という3つの視点から見ると、つながりとやさしさといこいという3つの言葉を使っても良いのではないか。

○会長

今回の策定プロセスでは、多世代の市民や職員が参画した。これまでの審議会では総合計画に関わった人達が10年後に総合計画を評価することまで想像して計画を作りたいという話が出ており、今回の審議会では、様々な立場の人々に対して、どのように説明するかという視点から考えている。「やさしさ」と「いこい」はこれまでの想いを継承する意味で使用でき、「やさしさ」は多様性にもつながる。「ふれあい」は未来につなぐという意味で「つなぐ」につながる。「西東京」に「市」を付けるかどうかであるが、「市」が基本理念に付いているのは前回資料の他自治体の事例では南九州市のみで、多摩地域内でも小金井市のみであるため、「西東京」でも良いのではないか。案1をベースに考えるという方向で良いか。改めて意見をうかがいたい。

○委員

案1から「まち」を取って「西東京市」とするべきだと考える。また、総合計画基本構想の構成から理想のまちの項目を統合したため、基本理念の下にそれぞれの言葉の説明文を入れ、基本目標につなげるべきではないか。

○会長

基本計画は冊子になるが、子どもにもわかりやすいリーフレットを作成して、基本理念の説明を入れてはどうか。様々な世代の人にわかりやすくメッセージを届ける一つの手段としてわかりやすい概要版を作成し、市民に届けたい。

○委員

基本理念の下には、リード文や用語の説明文は付くか。

○事務局

今回配布している資料は、実際の冊子上のページと同じイメージで作成している。

○委員

案1から「まち」を取る案には賛成であるが、市町村名は行政上の団体の呼称であるため、「西東京」にまちとしての意味が込められているのであれば「市」を付けなくても十分伝わるのではないか。

○委員

基本理念の文章の中に、社会状況や課題を追加しても良いのではないか。何年後かに振り返るとき、当時の状況や想いを確認できる。

○委員

「まち」と「市」を付けるかどうかという点について、2つの言葉の具体的な意味や違いがよくわからない。

○会長

「まち」を取る案は文章が長くなってしまふからである。「市」を付けることには様々な意味があり、それぞれの表記の仕方には想いがある。この件については、事務局で市の他の計画など市内の他の文章の表現と整合性を取ってほしい。

○委員

基本理念に「西東京」を使用すると、ほかの多摩地域の自治体から「うちも西東京だ」と言われるのではないか。

○事務局

今まで特にそのような意見等をもらったことはない。

○委員

一般的な民間企業の経営理念は、社内と社外の両方に向けたメッセージだが、西東京市のような地方自治体の基本理念は主に市内の人々に向けたメッセージと思う。「まち」が付いているなら「市」は省いても良いし、「まち」を取るなら「市」を付けた方が良い。この基本理念を市外へ見せて主張するなら西東京市とわかった方が良いが、主に市内向けであれば、市内の人は「市」が付かなくても西東京市のことと分かる。総合計画がどちらかというとな市内向けであるならば、「西東京」でも伝わるのではないか。

○委員

西東京市で地域活動を行っている人は、市内に住んでいる人だけではないので、言葉で限定しない方が良いのではないか。西東京市は市民のみで作られている市ではなく、人の行き来もふくめ、自由さがあるまちだとよい。人とつながりたくないという人もいるため、つながることが良いことのように言うのも良くないのではないかと感じた。これまでのプロセスで良い言葉がたくさん出てきたため、この会議で出たキーワード等が市の他の計画に活かされてほしい。

○会長

総合計画は、市民や市に関わりがある人、活動団体など、ステークホルダーに対する約束であるため、市外というよりも、市内に向けたものであると考える。西東京市のほかの理念等に「市」と付いているか、第三次総合計画から新たに「市」を付けることに説明を

付けられるか、の2点について事務局で検討してほしい。今日の意見を取り入れた案として、「ともにみらいにつなぐ やさしさといいこの西東京」はどうか。

○事務局

これまでのものには「市」は付いていない。基本理念については会長預かりとして、調整した後にフィードバックしたい。

事務局から資料2、資料3について説明

○会長

「市民」と「まち」という2つの立場を考えながら、行政の分野ごとに6つの目標を整理し、その下に施策がつながる。これはきちんと課題に取り組める形であるが、前回の審議会では縦割りではないかという意見があった。この数年の状況を予測して10年前に計画を立てた人はいないが、それに対応する仕組みは必要だと考える。現在立ち上がっている庁内プロジェクトチームなど、今の西東京市でできている取組みは計画の中で可視化する必要があるため、目標に加えてはどうか。

○委員

総合計画の計画管理を目標の中に一つの柱として立てておくということだと捉えた。企画部門が総合計画の計画管理を行い、必要なものはその都度プロジェクトチームとして立てて取り組むということを示せば、計画に書かれていないことにも柔軟に動きやすい体制になるのではないか。

○事務局

前回の総合計画で言うと、健康応援都市の実現は後期計画から加わり、各部門と連携して取り組んできた。計画の中に最初から位置づけることで取組みのやり方や方向を変えられるのではないかと感じた。新型コロナウイルス感染症関連のことなどは全庁が様々に連携して予測しえない事態に対応してきた。

○委員

現在横断的・全庁的にできていないという話ではなく、計画に示すことでより動きやすくなると考えている。

○委員

やはり理念の説明に社会状況等の現況を載せた方が良いと感じた。10年という長い期間の中では予測できない事態も起こるため、柔軟さがあると良い。庁内だけでなく市民と

の連携という視点も重要であると考える。

○会長

庁内連携は難しいことではあるが、職員ワークショップを見学した際に、連携できる場が作られていると感じた。部署の連携については、レジリエンスな仕組みとして西東京モデルを示せるのではないか。

○委員

資料3の「6. 基本施策『まちづくりの方向（案）』」について「まちづくりの方向性（目的）」とあるが、目的は目標の上位概念であるため、目標の下に目的を置く形式はやめた方が良いのではないか。課題と目標の連携をわかりやすくするため、目標と課題をセットにした装丁にしてはどうか。また、市民が読むとそれぞれの課題が重く感じられ、対応できるか懸念されるため、市で解決できる要素があることを示していただきたい。

○委員

基本目標1から6の順番に意味はあるのか。基本目標5の「安全・安心な快適に暮らせるまち」の「な」に違和感がある。

○事務局

基本目標は第2次総合計画を基本としているが、委員から意見等があれば検討材料としたい。

○委員

「背景」に「対応すべき課題等」とあるが、「まちづくりの課題」の中でどのように含まれていくのか。

○会長

背景と課題のつなげ方について、事務局で検討していただきたい。

議題3 その他

○事務局

次回審議会の日程について、近日中に連絡する予定である。

○会長

第10回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

（閉会）

